

## 2024年4月25日所長会見 所感

- 本日私からは3点お話をさせていただきます。
- まず、1点目は、4月15日から実施している燃料装荷の状況についてです。  
お手元には、ホームページへ日々掲載している日報の本日分をご参考としてお配りしております。
- 本日の7時時点の作業の進捗として、872体のうち792体の燃料の移動が完了しております。
- 燃料装荷を進める中で、いくつか不具合も確認されましたが、その都度しっかりと立ち止まり、プラントメーカー、協力企業も含めた関係者で対応について協議し、安全性を確認した上で、作業を継続しております。
- 引き続き、工程ありきではなく、気づきがあれば立ち止まり、最後の一体まで一つひとつ着実に作業を進めてまいります。
- 燃料装荷が終わると、健全性確認を進めてまいります。  
これまでも申し上げてきた通り、健全性確認の目的は、設備に問題がないかを確認することに加え、自ら問題点を見つけ、それを是正することです。
- そのため、健全性確認についても期限を決めず、慎重かつ着実に実施し、地域の皆さまにご安心いただけるよう、取り組んでまいります。

- 2点目は、新入社員の配属についてです。
- 当発電所に、4月から63名の新入社員が配属されました。新潟県の学校を卒業した社員は25名で、そのうち、柏崎市・刈羽村の学校を卒業した社員は15名です。
- 新入社員は現在、机上での集合研修をしています。原子力発電の仕組みや、設備の概要等の基礎的な知識から、立地の経緯や、地域の皆さまにご心配をおかけした事案等について学んでおり、集合研修後は、各部署で技能研修等を行う予定です。
- また、今後となりますが、私から直接、福島第一原子力発電所の事故など、これまで経験してきたこともしっかりと伝え、「東京電力社員として何をすべきなのか」を自ら考えるきっかけを与えていきたいと考えています。
- 新入社員とコミュニケーションをとる中で、「地域を愛し、愛される発電所になるために、何をすればよいか」といった質問がありました。
- 「まずは、地域の活動に参加し、触れ合って欲しい。そして、地域の皆さまからいただいた声を、発電所運営に活かして欲しい」と伝えたところ、力強い返事が返ってきました。
- 今年の新入社員は、あいさつ一つとってもしっかりとしており、何より元気で前向きな若者たちです。フレッシュな視点で、この発電所にさらなる活力を与えてくれることを期待しています。

- 3点目は、エネルギーホールの特館についてです。  
昨年10月にお知らせしたとおり、4月24日から原子力・立地本部の事務所竣工までの間、一時的な特館といたします。
- 1984年11月に開館し、昨年も延べ約1万8千人にご利用いただくなど、地域の皆さまにご愛用いただいたことをこの場を借りて感謝申し上げます。
- 昨年もお伝えしたとおり、利用実態や周辺施設状況も踏まえ、事務所の1階部分を、従来の使い方をベースに、多目的に使いやすいような施設に更新したいと考えております。
- これまでも地域の皆さまに、憩いの場としてご利用いただく中で、様々な声を頂戴してきました。  
新しい施設についても、地域の皆さまに愛される施設になるよう、設計にも地域の皆さまの声を反映してまいります。
- 本日、私からは以上です。